

いじめ防止 被害者の親ら討論



パネルディスカッションで意見を述べる青木和代さん（中央）ら 〓 大津市のピアザ淡海

大津でセミナー

深刻な社会問題となっている「いじめ」について考える「いじめ解決セミナー&パネルディスカッション」が20日、大津市におの浜のピアザ淡海で開かれた。平成13年に大津市内で少年2人から暴行を受けて死亡した青木悠君〓当時（16）の母、和代さん（63）さんが討論に参加し、集ま

った人たちが熱心に耳を傾けた。

全国でいじめについての講演や啓発活動を手がけるNPO法人「いじめから子供を守ろう！ネットワーク」（東京）の主催。「悲劇を繰り返さないために」と題し、青木君の事件や市内で起こった中2男子自殺問題に触れ、再発防止策などについて話し合った。

パネルディスカッションには、同法人の井沢一明代表（54）や古尾谷雅博市議（37）も参加。青木さんは自身の体験に触れ、「学校は

事実を公にしたがらないが、亡くなった子供を悼む気持ちで対応してほしい」と訴えた。古尾谷市議は中2男子自殺問題を挙げ、「当初学校は『いじめはない』としていたのに、後になって認めた。教員らが情報を共有しづらいとすれば、その要因は何なのか明らかにすべきだ」と指摘。井沢代表は「保護者がいじめについて学校へ相談や訴えなどに行く場合、複数で出向いたり録音記録などの証拠を提示したりすると効果的だ」と話した。